

- 問1 長崎県は複雑な海岸線を持つことから、入り江などを網で仕切って魚を育てる「海面養殖」が盛んです。2008年から2013年にかけて、長崎県ではぶり、まぐろ、ふぐなどの様々な魚が育てられています。これらと並んで生産額の多くを占めている代表的な魚種を選択肢から選んでください。 (2017年 京都府公立入試 類似)
1. ほたてがい 2. まだい 3. かつお 4. さけ
- 問2 九州地方の長崎県は、内陸県である群馬県と比較して、小学校1校あたりの児童数が少ないという特徴があります。これは、長崎県が持つどのような地理的条件が影響していると考えられますか。適切な記述を選択してください。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 造船業や水産業が盛んな地域では、職住近接の考えから小規模な学校が好まれる。 2. 多数の有人離島が存在し、それぞれの島に独立した教育環境を整備する必要がある。 3. 他県からの転入者が多いため、将来の人口増加を見越してあらかじめ多くの学校を設置している。 4. 平地が少なく急峻な山岳地帯が多いため、大規模な校舎を建てることができない。
- 問3 阿蘇山に見られる「カルデラ」と呼ばれる地形に関する説明として、その成り立ちと内部の様子を正しく組み合わせたものはどれですか。 (2022年 愛媛県公立入試 類似)
1. 火山灰が長期間にわたって厚く降り積もって形成され、水はけが良すぎるため稲作には向かない広大な台地となっている。 2. 大規模な噴火のあとに中央部が陥没して形成され、内部には平坦な土地が広がり集落や農地が存在している。 3. 川が山地から平地へと流れ出す場所に土砂が堆積して形成され、水が得やすいため古くから大規模な都市が発達している。 4. 地殻変動によって山地が海に沈んで形成され、複雑に入り組んだ海岸線が天然の良港として利用されている。
- 問4 九州地方の各県を比較した統計において、温泉の源泉数は184と比較的少ないものの、小麦の収穫量が51,800トンに達し、全国でも有数の生産量を誇っている県はどこですか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 愛知県 2. 佐賀県 3. 大分県 4. 沖縄県
- 問5 九州地方南部に位置する鹿児島県では、第1次産業の就業人口割合が約9.5%と全国平均に比べて高く、農業が盛んです。この県の土地利用の特徴として、耕地面積に占める畑の割合が約68%と非常に高いことが挙げられますが、このように畑作や畜産が中心となった主な理由として正しいものはどれですか。 (2018年 東京都公立入試 類似)
1. 平野部がほとんど存在せず、急峻な傾斜地を利用した果樹園の経営が中心となったから。 2. 夏の降水量が極端に少なく、大規模なため池を作ることが技術的に困難であったから。 3. シラス台地と呼ばれる火山灰が降り積もった土地が広がり、水持ちが悪いため稲作に不向きであったから。 4. 冬の積雪量が多く、1年の半分以上を農作業に充てることができない気候特性があるから。
- 問6 九州南部の鹿児島県周辺に広がる、過去の火山活動による噴出物が厚く堆積して形成された台地を何といいますか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 扇状地 2. 関東ローム層 3. カルデラ 4. シラス台地
- 問7 九州地方の農業において、鹿児島県や宮崎県を含む南九州で特に生産が盛んであり、統計上も九州地方全体の農業産出額の約4分の1を占める主要な部門はどれですか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
1. 畜産 2. 米 3. 果実 4. 工芸作物
- 問8 沖縄の自然環境に関するレポートにおいて、海岸沿いに生息する樹木の特徴として「潮の満ち引きの影響を受ける場所に発達し、島を波の衝撃から守る役割がある」と説明される植物群があります。この植物群が持つ生態系や防災上の特徴として最も適切なものを選びなさい。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
1. 砂漠地帯に自生する植物であり、海岸の砂の移動を防ぐ役割がある 2. 針葉樹の集まりであり、強い潮風を受けても折れにくい性質を持っている 3. 常緑広葉樹の集まりであり、天然の防波堤として海岸線を保護している 4. 落葉広葉樹の集まりであり、季節による海水の温度変化を調節している
- 問9 鹿児島県の桜島周辺における降灰被害について、冬の2月には降灰が主に火口の南東方向（海側）へ広がるのに対し、夏の8月には火口の北西方向（鹿児島市街地側）へと広がることが統計的に示されています。このように、時期によって降灰の範囲が変化する要因として最も適切な説明はどれですか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 季節風の影響により、季節ごとに卓越する風の向きが変化するため 2. 日本付近の上空を流れる偏西風が、季節によって完全に消滅するため 3. 夏は気温が高いため、噴煙が上昇気流に乗って拡散されなくなるため 4. 周辺を流れる日本海流（黒潮）が、季節によって流路を大きく変えるため
- 問10 九州地方南部の鹿児島県や宮崎県では、火山噴出物が積み重なってできたシラス台地が広く分布しています。この地域で、稲作ではなく豚や肉用牛などの飼育を行う畜産業が盛んになった理由として、地形の性質に触れた説明として最も適切なものはどれですか。 (2020年 香川県公立入試 類似)
1. 急峻な傾斜地が多く、機械を導入した大規模な耕作が困難であったため 2. 平坦な土地がほとんど存在せず、家畜を放牧するスペースしか確保できなかったため 3. 標高が極めて高く、夏季の気温が上昇しないため稲の生育に適さなかったため 4. 土壌の水はけが良すぎて、水田に必要な水を保持することが難しかったため
- 問11 鹿児島県から宮崎県にかけて広がる、火山噴出物が堆積してできたシラス台地では、その土地の性質からどのような土地利用が一般的ですか。最も適切な理由と内容の組み合わせを選びなさい。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 年間を通して気温が低く土壌が凍結するため、農地にはせず牧草地として利用されている。 2. 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくいので、古くから畑として利用されている。 3. 土壌に塩分が多く含まれており農作物の栽培に適さないため、主に工業用地として利用されている。 4. 保水力が非常に高く、常に湿り気を帯びているため、大規模な水田地帯として利用されている。
- 問12 鹿児島県などの畜産が盛んな地域では、1970年代から近年までの統計において、豚を育てる農家の数は著しく減少していますが、県全体の飼育頭数は高い水準を維持しています。このような、一戸あたりの飼育頭数が増えて経営の規模が拡大することを何といいますか。 (2015年 兵庫県公立入試 類似)
1. 地産地消の推進 2. 畜産業の大規模化 3. 施設園芸農業の普及 4. スマート農業の導入

答え合わせ・解説

問1	答え 2 まだい	長崎県は、リアス海岸などの入り組んだ地形や多くの島々という地理的条件を活かし、海面養殖が非常に盛んな地域です。特に「まだい」の養殖生産量は全国でもトップクラスであり、ぶり、まぐろ、ふぐ（トラフグ）といった市場価値の高い高級魚を組み合わせで生産することで、高い生産額を維持しています。
問2	答え 2 多数の有人離島が存在し、それぞれの島に独立した教育環境を整備する必要がある。	離島を多く抱える地域では、島をまたいで通学が困難なため、児童数が少ない島であっても小学校を設置する必要があります。このため、県全体の児童数を学校数で割った「1校あたりの児童数」は、都市部や平野部が多い県に比べて少なくなります。これは、地理的制約の中で教育の機会均等を確保するための社会基盤（インフラ）整備のあり方を示しています。
問3	答え 2 大規模な噴火のあとに中央部が陥没して形成され、内部には平坦な土地が広がり集落や農地が存在している。	カルデラは火山活動による陥没でできた地形ですが、その内部は非常に広大で平坦な土地が広がっている場合があります。阿蘇山では、このカルデラの中に数万人が居住する集落があり、水田や畑などの農地、さらには鉄道（JR豊肥本線）や国道といった交通網も整備されているのが大きな特徴です。他の選択肢はシラス台地、扇状地、リアス海岸の説明です。
問4	答え 2 佐賀県	九州地方では、広大な平野部を利用した農業が盛んです。特に佐賀県（佐賀平野）では、夏の米作の後に冬から春にかけて小麦を育てる「二毛作（水田裏作）」が行われており、小麦の収穫量が非常に多いのが特徴です。温泉の源泉数が多い大分県など、他の県の特徴と混同しないよう注意が必要です。
問5	答え 3 シラス台地と呼ばれる火山灰が降り積もった土地が広がり、水持ちが悪いため稲作に不向きであったから。	鹿児島県を含む九州南部には、火山の噴出物が積み重なってできたシラス台地が広がっています。この土地は水はけが良すぎて水持ちが悪いため、かつては大規模な水田を作ることが困難でした。そのため、水が少なくても育つサツマイモなどの畑作や、広大な土地を利用した肉用牛、豚、ブロイラー（鶏）などの畜産が発展しました。
問6	答え 4 シラス台地	九州南部に分布するこの台地は、巨大な噴火による火砕流などの堆積物によって作られました。この土壌は非常に厚く堆積しており、地域の農業のあり方に大きな影響を与えています。
問7	答え 1 畜産	鹿児島県や宮崎県を中心とした南九州は、シラス台地と呼ばれる火山噴出物による台地が広がり、水持ちが悪く稲作に不向きな土地が多く存在しました。そのため、古くから畑作とともに肉用牛、豚、鶏などの飼育を行う農業が発展し、現在では日本有数の生産地となっています。
問8	答え 3 常緑広葉樹の集まりであり、天然の防波堤として海岸線を保護している	マングローブは亜熱帯の沖縄において重要な自然環境を形成しています。潮の満ち引きがある海岸沿いに生育する常緑広葉樹であり、その密集した樹木と根が波の衝撃を和らげることで、海岸線の浸食を防いだり、高潮から居住地を守ったりする防災機能を備えています。選択肢にある針葉樹や落葉広葉樹の特徴とは異なります。
問9	答え 1 季節風の影響により、季節ごとに卓越する風の向きが変化するため	日本付近では、季節によって吹く方向が変わる「季節風」の影響を強く受けます。一般的に、冬は北西から、夏は南東からの風が吹くため、火口から見て北西方向に位置する鹿児島市街地では、特に夏場に降灰の影響を受けやすくなるという地理的な特徴があります。一方、冬は北西からの風によって火山灰が南東側の海へと流されるため、市街地への影響は夏に比べて限定的になります。
問10	答え 4 土壌の水はけが良すぎて、水田に必要な水を保持することが難しかったため	鹿児島県から宮崎県にかけて広がるシラス台地は、過去の火山活動による噴出物が堆積して形成されました。この土壌は粒子が細かく非常に水はけが良い（保水力が低い）ため、稲作に不可欠な水を溜めておくことが困難でした。このような地理的条件から、水不足に強いサツマイモや茶の栽培、そして広大な台地を有効活用できる畜産業が発展し、現在では日本屈指の畜産地帯となっています。
問11	答え 2 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくいため、古くから畑として利用されている。	シラスは火山灰や軽石が堆積したもので、粒が粗く隙間が多いため、水はけが良すぎるという特徴があります。そのため、稲作に必要な水を溜めておくことが難しく、伝統的にサツマイモや茶などを栽培する畑作が行われてきました。現在は大規模な灌漑（かんがい）施設の整備により、さまざまな農業が行われています。
問12	答え 2 畜産業の大規模化	鹿児島県における豚の飼育状況を見ると、1974年から2013年にかけて飼育戸数が大幅に減少する一方で、飼育頭数は高い水準を保っています。これは、一戸あたりの飼育頭数を増やすことで生産効率を高め、競争力を維持しようとする動きによるものです。このように、農家数が減りながらも一戸あたりの経営規模が大きくなる現象を大規模化と呼びます。